

C—13 家庭用椅子の人間工学的研究（第1報）  
——休息用椅子の安楽性と体圧分布および  
椅座中の体動との関係について——

奈良女子大 太田 昌子  
花岡 利昌

1. 椅子の人間工学的研究は、既に事務用椅子や走行する乗物の座席等について、着々とその成果をあげつつあるが、家庭で日常使用されている椅子類については、未だ余り顧みられていない現状である。今回は各種椅子の中で、主として休息用に用いられる椅子のかけごころと、座面におよぼす体圧分布の状態、および椅座中の体動との間にどのような関係があるかを追求し、解明することを試みた。

2. 椅子座面体圧分布測定の方法としては、簡易複写

機用カーボン紙を利用して薄葉紙に型どりする方法と、ストレインゲージを利用した圧力計による方法とを併用した。また椅座中の体動は、前記圧力計を座面にとり付けて、これを自記記録装置に導き、一定時間中の体動回数を記録すると同時に、メモモーション撮影を行なって、姿勢の変化も観察することとした。このようにして得られた資料と、椅座中に身体各部に感じられる圧痛その他の不快感の位置や程度との間に、どのような関係があるかと比較検討した。

3. 椅子座面の高さ、奥行、背もたれの角度などの条件と、体圧分布状態との関係、また体圧分布と椅座中の体動とかけごころ、この三者間の関係のある程度明らかにすることができた。これらの方法は、椅子の安楽性を客観的にとらえる一つの手がかりとなり得るものと思われる。